

# 親子で読んでほしい

# いい絵本大賞

発表



今年も「親子で読んでほしい絵本大賞」が、JPIC読書アドバイザー147名の投票で決まりました。選出のコメントは、おはなし会などの現場で実際に子どもたちに向けて絵本を読んでいるアドバイザーならではのものです。ぜひ、参考にしてください。また、編集部が候補作を厳選し、小誌読者のみなさんにも「読者賞」の投票をいただきました。今回は6位が同率となったため、あわせて7作品を発表いたします。

★コメントを寄せていただいた方の敬称略、順不同。 撮影/J・SAKURA

★今日は参観日。まだかなお母さん！お仕事終わらないのかな？間に合うかな？こちらまでドキドキしてしまいます。(5期 朝田幸子)

★授業参観の日は、朝から、そわそわ、ドキドキ。いちばんいいところを見せたいけれど、仕事をしているお母さん、ちゃんと間に合うように来てくれるのかなあ。そんなげんきくんの気持ち、共感できるなあ。(7期 藤村由美)

★大忙しのお母さん、作文を読み終わるまでに間に合ってくれるでしょうか？チャーミングなお母さんを、ほくと一緒に応援します！(7期 渡辺裕己子)

★親子で読んで、笑って、ほっこりする絵本。いつの間にか親として参加するようになった、授業参観。仕事を調整して向かう、特別な時間。そういえば、子どものときもそれは特別な時間だった思い出しました。(15期 坂口慶)

★げんきくんはお仕事でも家でもがんばるお母さんに作文を聞いてもらいたい！教室に向かって走るお母さん、ゆっくり読むげんきくん、ハラハラして聞いている友だちと参観者、絵本を読む私の気持ちもひとつになります。(15期 渡部陽子)

★お母さんのエピソードトークを、盛り上げながら、なおかつ到着まで間をもたせる腕に脱帽！(17期 藤田由希子)

★授業参観で、お母さんを待つ男の子、そして職場から駆けつけるお母さんに、親子で共感できます。また、授業参観に来ている保護者の絵が、性別、年代、服装がいろいろなのも今どきです。きだと思いました。(19期 佐藤真紀)

★美容師の仕事もおうちのこともがんばってるお母さんが大好きなんだね。子どもの気持ちが伝わってきます。(24期 くまちゃん)

★働いているお母さんにとってうれしい絵本です。仕事と家事の大変さがリアルによく伝わります。しっかりお母さんのことをわかっている作文を、げんきくんが読んでくれます。仕事を終えやつのことで間に合い、私もホッとしました。(22期 中野玲子)

★お母さんが大好きで尊敬していることが、ユーモラスに伝わってきます。子どもって、親をよく見ていますよね。忙しいお母さんを授業参観で待ち焦がれる気持ちと思いやる気持ち、両方感じられる作品です。(26期 瀧澤有希子)

★参観日に作文を読むげんきくん。お母さんは、仕事から学校に向かうまっ最中。子どもって、お母さんのことよく見てる。そして、大好きでいてくれる。お母さんが教室についたときのげんきくんの表情がとってもいいのです。(27期 若林やよい)



『ぼくのおかあさん』  
2ねん1くみすぎしたげんき

文/川之上英子、川之上 健 絵/大島妙子  
1,650円(アリス館)



## 親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい！いい絵本を親子に届けたい！との思いを込めて、JPIC読書アドバイザークラブ(JRAC)により創設されました。選出方法:JRAC会員60名からなる選考委員が、「この本読んで!」2024年春号～冬号の4号で紹介された新刊絵本400冊の中から候補作16作品を選出。それを、JRAC会員有志が読み、16作品の中から1～3位とベビー賞を選んで投票しました。

※JPIC読書アドバイザークラブについての詳しい説明は、P51下部に記載しています。



## 連動フェア実施!

この特集で紹介した絵本のコーナーが以下の書店に設けられます。くわしくは下記まで  
ブックハウスカフェ(東京都千代田区)  
03-6261-6177  
にこにこ書店(東京都新宿区)  
03-3565-6232  
こどもの本の店 ともだち(神奈川県横浜市)  
045-561-5815

# 著作権保護コンテンツ

## 卒園 入学

### 『一ねんせいになったら』

詞/まど・みちお 絵/かべやふよう  
1,320円(ポプラ社)

100人の子どもが富士山の上でおにぎりを食べたり、世界じゅうをふるわせて笑ったり。童謡「一ねんせいになったら」の1番から3番の歌詞に絵をつけた、にぎやかな歌絵本です。



### 『しょうがくせいになるまでに、やるといいこと。しょうがくせいになったら、やるといいこと。しょうがっこうがだいすき』

作/うい 絵/えがしらみちこ  
1,540円(Gakken)

作者は、当時小学校2年生のういちゃん。自身の経験をもとに、幼稚園や保育園の子どもたちに小学校の様子や楽しく過ごすための16のアドバイスを、わかりやすく伝えます。



### 幼年童話

### 『しょうがっこうが、きれいです!』

作/山本悦子 絵/佐藤真紀子  
1,320円(あかね書房)

朝、胸の中がモヤモヤしていて、学校に行きたくないみたいと気づきました。勉強がつまらないから? 給食がイヤだから? でも、ママにシャボン玉をつくる「秘密の道具」を持たされて、しぶしぶ登校します。



### 『ランドセルがやってきた』

作/中川ひろたか 絵/村上康成  
1,430円(徳間書店)

おじいちゃんから届いた箱を開けると、中にはうみひこくんが大好きな青色のランドセルが! うみひこくんは、さっそく背負って近所を歩きます。「だいじなことをわすれてた」と気づく、ラストのシーンにはほっこり。



### 『らんらんランドセル』

作/モリナガ・ヨウ  
1,760円(めぐるむ)

200もの部品を組み立ててできるランドセル。大人も知らない部品の名前や役割を解説し、1枚の人工皮革からランドセルが作られる工程を丁寧に描いています。だから、こんなに丈夫なんだね!



### 『したじきくんとなかまたち』

作/二宮由紀子 絵/山村浩二  
1,430円(アリス館)

はじめて学校に行くのがちょっぴりこわい、したじきくん。えんぴつや消しゴムたちが励ましますが、自分には仲間がいないし、得意なことわかりません。新1年生の気持ちがわかります。

### 『おめでとうかいぎ』

作/浜田桂子  
1,518円(理論社)

幼稚園を卒業した日、ゆうきくんが眠れずにいると、通園バッグが会議を始めました。参加者は赤ちゃんのときに着たベビー服や哺乳瓶に、これからお世話になるランドセルも! 成長を祝うあたたかな会議がくり広げられます。



### 『いちねんせい』

詩/谷川俊太郎 絵/和田 誠  
1,100円(小学館)

学校のこと、友だちのこと、期待や不安。新1年生の日常が生き生きと描かれた、大人の心にも響く詩です。美しい日本語のリズムが、声に出して読む楽しさを教えてくれます。



### 『がっこうへくまをつれていかないで』

文/マーク・スペアリング 絵/ブリッタ・テッケントラップ  
訳/三原 泉  
1,980円(BL出版)

もうすぐ1年生。でも、一緒にいたいからってクマを学校へ連れてはいけません。クラスの子と名前を教え合ったり、先生におはなしを読んでもらったりしているうちに、一日はあっという間に過ぎていきますよ。



### 『がっこうだっぴきどきしてる』

文/アダム・レックス 絵/クリスチャン・ロビンソン  
訳/なかがわちひろ  
1,540円(WAVE出版)

新しい学校ができましたが、学校ってどんなところなのかわからなくて、学校自身も不安でたまりません。そこにたくさんの子どもたちがやってきて、騒いだり泣いたり笑ったりしながら一日を過ごします。



### 『さよなら ぼくたちのようちえん ほういくえん』

文/新沢としこ 絵/みやにしたつや  
1,540円(金の星社)

幼稚園や保育園の卒園式でよく歌われる曲を絵本化。みんなと一緒にたくさん遊んで、ときには泣いたこともありましたが、園での思い出がページをめくるたびにかけめぐります。



### 『さよなら ようちえん』

作/さこももみ  
1,540円(講談社)

卒園式の前の日、雪がたくさん降ってきました。いつもひとりだったひろきくんが、スモックに落ちた雪の結晶を発見して、みんなが集まってきました。そこで、園長先生はみんなに大事な話をします。

# 著作権保護コンテンツ

## 『あのこはだあれ』

作/北村人  
1,430円(岩崎書店)



ダルメシアンの子イヌが、いろんな模様の動物たちと出会います。白に黒い模様のウシ、白に黒の縞模様のシマウマ、黄色に黒のチーターに、自分と同じ模様のお母さん。最後に黒い画面いっぱいに広がった白いものは……。

## 『クマダさんのどんぐりコーヒー』

作/はやしますみ  
1,650円(アリス館)



長い眠りから目覚め、どんぐりコーヒーをいれたクマダさん。その香りにつられて、ハチやウシたちがやってきます。みんながお代のかわりに置いていった蜂蜜や卵を使って、クマダさんはマフィン焼きました。

## 『ぼくは ほんこつじはんき』

文/由美村嬉々  
絵/山本久美子  
1,540円(あさ出版)



僕は海の見える町にある、うどん・そばの自動販売機です。24時間365日、ずっとうどん・そばをつくり続けていて、今日もたくさんの人がやってきます。でも、かなり古くなり「ほんこつじはんき」と呼ばれています。

もう  
読んだ？

# 新刊 100!!

2024年9～11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちと素敵な時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。㊧は縦開きの本。  
㊦ マークは赤ちゃんから、㊧は中・高校生も楽しめる本です。

## 定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

## 『100ねんごも またあした』

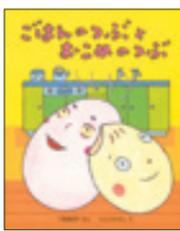
作/瀬尾まいこ  
絵/くりはらたかし  
1,870円(岩崎書店)



図工の時間に、先生が「100年後の世界を描いてみましょう!」と言ったので、教室の壁に、みんなの描いた100年後の世界が並びました。すると、見たことのない子が現れて、未来のことをいろいろ話してくれました。

## 『ごはんのつぶと おこめのつぶ』

文/二宮由紀子  
絵/いとうひろし  
1,650円(アリス館)



台所の床に落ちてしまった、ごはんの粒とお米の粒。最初はふっくらだったごはん粒もだんだん干からびてカチコチに。そこでふたりは、どちらが先に人間のソックスにくっついて「あいたた」と言わせられるか競争をしました。

## 『おかえりなさい、スノーマン』

文・絵/マイケル・フォアマン  
訳/三辺律子  
1,870円(あすなろ書房)



公園の奥に立つ、古い帽子にしましまのマフラーを巻いたスノーマンに、コマドリが「おかえり!」と声をかけました。そして、ふたりは夜の街へ冒険に出かけます。それは、お日さまの光が届くまでの夢のような時間でした。

## 『もうねむるじかん』

文/エイミー・ヘスト  
絵/レナータ・リウスカ  
訳/いわじょうよしひと  
1,595円(岩崎書店)



もうすぐパパがおやすみの前に来てくれるはず……とベッドで待つウサギ。でも、なかなか来てくれないので、待ちきれずにパパと過ごすのに必要なものをワゴンに積んで、パパの部屋に向かいました。

## 『がいのひっこし』

文/山田彩央里  
絵/山田和明  
1,870円(イマジネーション・プラス)



街を照らしていた街灯は、大きな街灯が立ち並んだので新しく照らす場所を見つけに行きますが、なかなか見つかりません。やっとたどりついたところは、さびれた広場でした。そこでいろいろな人の話を聞きます。

## 『ぬすまれたねむねむ』

作/アネテ・メレツェ  
訳/椎名かおる  
1,870円(あすなろ書房)



ステラはもう寝る時間なのに、9冊の絵本を読んでも眠くなりません。パパは眠りを誘う魔法の粉を「ねむねむセンター」に注文しました。でも「ねむねむ」が盗まれて、家じゅうを探すことになってしまいました。

## 『おらは おおきな オランウータン』

作・絵/たけがみたえ  
監修/久世濃子  
1,650円(あかね書房)



ボルネオの熱帯雨林にすむオランウータンは、眠るのも食べるのもトイレも木の上です。縄張りをつくらず適度な距離をたもって生活するのは、食べものの少ない森で暮らすには、大切なことです。

## 『こいぬのがっこう』

作/きたむらさとし  
1,760円(岩波書店)



子イヌの「はく」は、ルーシーが通っている学校がどんどこか興味津々です。ある日、イヌの学校に行っていることを学びます。でも、夢中になっている間に迷子になってしまいました。

## 『くまとかきのみ』

作/なるかわしんご  
1,870円(イマジネーション・プラス)



山に大雨が降って家が壊されてしまったクマは、冬を越す家を探すことにしました。すると枝に実った柿が仲間のいる山に戻りたいと声をかけてきました。崩れていない道を探して進み、なんとか尾根につきました。

## 『ハトのしあわせうり』

文/ダヴィデ・カリ  
絵/マルコ・ソマ  
訳/山下愛純  
2,530円(アチェロ)



ハトのしあわせうりは古びたトラックでお客さんの家を回って歩きます。しあわせには、大きいびん、小さいびん、ファミリーパックもあります。いろいろな鳥たちが、お買い上げです。

## 『このほしのこども』

作/吉田尚令  
1,760円(あかね書房)



世界のあちこちでひどいことが起こっています。なぜこんなことをするのか？ 私にできることはあるのかな？ せめて楽しい世界を想像して、暗闇にあかりを灯しましょう。子どもたちが安心して眠れるように。

## 『トランポリンがありました』

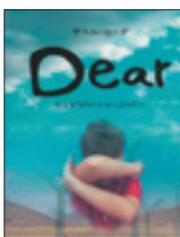
作/楓 真知子  
1,540円(絵本館)



トランポリンを見つけたら、どうしますか？ それは、やっぱり、とんでみたくなりますよね。いちばん乗りでポー、一緒にポー、真夜中だって、雨の日だって、たとえ失敗してもめげないで、とぶんです。

## 『Dear』

16とおりのへいわへのちかい  
作/サヘル・ローズ  
1,870円(イマジネーション・プラス)



戦争によって国を壊され、家族を失った難民キャンプに暮らす子どもたち。作者に手紙を託したのは、いなくなった家族を思う子、平和を願う子など。子どもたちの言葉を私たち大人は受け止めなければなりません。それぞれの声を届けます。

## 『あたらし島のオードリー』

文/川上和人  
絵/箕輪義隆  
1,760円(アリス館)



カツオドリのオードリーは、海に浮かぶ小さな島にすんでいました。ある日、近くの海で始まった噴火によって流れ出た溶岩は、オードリーたちの島も覆いつくしました。小笠原諸島の西之島がモデルです。

## 『十二支がくえん』

作/かんべあやこ  
1,650円(あかね書房)



ネコは、十二支に入れなかった積年の恨みを晴らすべく、彼らが学ぶ学園に乗り込みました。十二支は時間や方角にも使われることや、国によっては自分も十二支の一員だと知ることができ、ネコは給食も食べて大満足です。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

# 著作権保護コンテンツ

## プログラム (各 10~15分) 小学校高学年

### 4月 テーマ: 春、ぼちぼちいこか~

- ①『さくら』  
文/長谷川摂子 絵・構成/矢間芳子  
1,320円(福音館書店)  
春に咲く花で真っ先に思い浮かぶサクラの花。サクラの木の一年をたどります。
- ②『こぶたのブルトン はるは おはなみ』  
作/中川ひろたか 絵/市居みか  
1,430円(アリス館)  
サクラが咲いたらお花見に行きますよ! タカサキさんのお花見は思い込みが肝心です。
- ③『ぼちぼちいこか』  
作/マイク=セイラー 絵/ロバート=グロスマン  
訳/いばえよしと  
1,320円(偕成社)  
新学期のスタートで、みなさん張りきっているとありますが、ぼちぼちいきましょう!

### 5月 テーマ: これでいいのだ!

- ①『やまのぼり』  
作・絵/さとうわきこ  
1,320円(福音館書店)  
休み明けは学校に行きたくないものです。そんなときは、ばばあちゃんのように、楽しいことを考えましょう。
- ②『ま、いっか!』  
作/サトシ 絵/ドーリー  
1,650円(えほんの社)  
超ポジティブ人間のテキトーさんに憧れます。児童のみなさんの「ま、いっか!」の大合唱が聞けるかもしれませんよ。

### 6月 テーマ: 雨にも負けず!?

- ①『おじさんのかさ』  
作・絵/佐野洋子  
1,540円(講談社)  
梅雨時は気分が暗くなりがちですが、この本を読むときつと雨の中、傘をさして歩きたくありませんよ。
- ②『あめのち ゆうやけ せんたくかあちゃん』  
作・絵/さとうわきこ  
1,100円(福音館書店)  
かあちゃんはなぜ川でせんたくをしたくなったのでしょうか?(ヒントは最初のページの絵)
- ③『ふるやのもり 日本の昔話』  
再話/瀬田貞二 絵/田島征三  
1,100円(福音館書店)  
"ふるやのもり"って何のことでしょうか?と言ってから読み始めるのもいいかもしれません。

(横山裕美)

## プログラム (各 10~15分) 小学校中学年

### 4月 テーマ: 動かたくなるね

- ①『いてもたっても』  
作/たけがみたえ  
1,760円(小学館)  
命の躍動感が春にびつたりの絵本です。すてきな言葉なので、ぜひ覚えてもらいましょう。
- ②『おどりたいの』  
作/豊福まきこ  
1,650円(BL出版)  
踊りたい気持ちはウサギも同じ。見開きいっぱい画面はゆつくりと味わえるよう、十分に間をとりますよ。

### 5月 テーマ: お母さんってすごい

- ①『つかまえた!』  
作/鈴木まゐる  
1,540円(講談社)  
つかまえる音は丁寧に。お母さんへの驚きと称賛をみんなで共有できるといいですね。
- ②『ママはかいぞく』  
文/カリヌ=シュリュグ 絵/レミ=サイヤール  
訳/やまもとともこ  
1,650円(光文社)  
海賊のママが戦っている相手は実は、ガン。無理に知らせる必要はないと思います。
- ③『おこりんぼママ』  
作/ユッタ=パウアー 訳/小森香折  
1,375円(小学館)  
ママの怒りはすごい破壊力。内容はシニールで怖いのですが、絵がユーモラスなので淡々と読むのがいいと思います。

### 6月 テーマ: バナナ大好き

- ①『はずかしがりやの バナナくん』  
作/岡田よしたか  
品切れ中(PHP研究所)  
バナナ好きな子?と聞けばみんなが手をあげてくれるでしょう。大阪弁は読む練習が必要かもしれません。歌は楽しく元気に。
- ②『バナナじけん』  
作/高島那生  
1,540円(BL出版)  
子どもたちに次を予想させながらも、ラストまでテンポよく読みましょう。
- ③『きょうは こどもを たべてやる!』  
文/シルヴィア=ドニオ 絵/ドロテド=モンフレッド  
訳/ふしみみさ  
1,540円(はるぶ出版)  
ワニの子どもの背伸びしている姿がほほえましい。

3冊とも見返しがすべてバナナの絵なので、最後に広げて並べて見せてもいいですね。

(粟生真弓)

## プログラム (各 10~15分) 小学校低学年

### 4月 テーマ: 最初の……

- ①『はじめまして』  
作/新沢としこ 絵/大和田美鈴  
1,430円(鈴木出版)  
初顔合わせの子どもたちです。読み手さんの挨拶やPRを本の最後につけ足してみてもいい。
- ②『あ』  
文/たにかわしゅんたろう 絵/ひろせげん  
1,320円(アリス館)  
五十音最初の「あ」と組み合わせた単語はたくさん。子どもたちと考えてみませんか?
- ③『はじめまして』  
作/近藤薫美子 1,760円(偕成社)  
はじめましては、初対面の相手に使う言葉。シジュウカラはサクラに「はじめまして」と挨拶します。去年も会っているのに……どうして?

### 5月 テーマ: 鳥たちは何と鳴く?

- ①『いちばんどり いちぬけた』  
作/日隈みさき 1,430円(あかね書房)  
一時はどうなることかと心配したけれど、いつもの鳴き声で朝が来ました。一件落着、ひと安心。
- ②『いまむかしえほん ききみみずきん』  
文/広松由希子 絵/降矢なな  
品切れ中(岩崎書店)  
手ぬぐいなどを用意して「ずきん」のミニ説明をすると、おはながよりイメージできるかも。
- ③『鳥の島』  
作/川端 誠 1,870円(BL出版)  
広い海を渡ろうとするときの気持ちで、鳥になって、さあ飛んでみよう! 鳴いてみよう!

### 6月 テーマ: 雨やみタイムに

- ①『どっち?』  
作/まつおかたつひで 1,540円(ハッピーオウル社)  
雨がやんだら外に飛び出して「あなたはどっち?」、と尋ね歩きたくなるおはなしです。
- ②『ラオス=モン族の民話 かつむりとさる』  
再話/ヤン=サン 下絵/ハー=ダン  
刺繍/モン=のこもたち 訳/やすいきよこ  
1,100円(福音館書店)  
巧みにサルを出し抜くカツムリはなかなかの策士。絵はモン族の子どもたちが刺繍をしたもの。手にとって見てもらいましょう。
- ③『ふってきました』  
文/もしたいつみ 絵/石井聖岳  
1,650円(講談社)  
空から降ってくるのは雨、とは限りません。思いもよらぬものが次から次へと降ってきて……。

(岩井淳子)



対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

## 行事絵本・季節の絵本

### 時・時計

#### 『とけいのおおくん』

作/エリザベス=ロバーツ 訳/灰島かり  
絵/殿内真帆 990円(福音館書店)  
朝、大きく澄んだ音を響かせたのは、時計のおおくんです。ママと男の子から誕生日にプレゼントされたパパは、とても気に入りました。



### 歯・歯医者さん

#### 『わにさんどきつ はいしゃさんどきつ』

作/五味太郎  
1,100円(偕成社)  
虫歯が痛いワニさんが、歯医者さんに来ました。ふたりとも、不安な気持ちに変わりはないようで、同じ場面で同じ言葉を口にします。



### 紙芝居

#### 『よもぎだんご べったん』

脚本・絵/土田義晴  
1,540円(童心社)  
道端でも見かけるヨモギは、古代から薬草としてもなじみ深い草です。ウサギのキキ、クマのククンと一緒に、よもぎだんごをつくってみましょう。



### 紙芝居

#### 『こいのぼりののぼくん』

脚本/すとうあさえ 絵/福田岩緒  
2,090円(童心社)  
キツネのこんこんさんが、柏餅をたくさんつくりました。「どうやってみんなに届けよう?」と考えていると、庭で泳ぐこいのぼりののぼくんが声をかけました。



### 紙芝居

#### 『アマガエルのきしょうぼうし』

脚本/キム=ファン 絵/ミヤザナツ  
2,090円(童心社)  
アマガエルのあたるのお父ちゃんは、雨が降る予報をはずしたことがありません。それはなぜなのか、今日、教えてくれることになりました。



(安富ゆかり)

# 保育者のたまごたちと絵本

保育現場の先生たちが養成校で絵本についてどのように学んできたかを伺う、「この連載。今回は視野を広げて、司書資格取得をめざす学生たちの事例を、昭和女子大学の池田美千絵さんに伺いました。」取材：文／荒木豊



池田美千絵  
いけだ みちえ

昭和女子大学日本語日本文学科助教。専門は図書館情報学。2021年4月より現職。23年4月～24年3月まで、図書館に来館する子どもたちが楽しめる本について考え、作成するプロジェクト「世田谷ふしぎの本プロジェクト」の運営に参加。



まずは読みかきせの方法や注意点などの説明をせずに、グループに分かれてお互いに読みかきせをします。



楽しく和気あいあいと読みかきせの演習をしていくなかで、他学科や他学年の学生ともすぐに仲よくなっていきます。

## 司書資格を取得する科目で絵本を使った授業を展開

昭和女子大学は、東京都世田谷区にある4年制の大学で、国際学部、グローバルビジネス学部、人間文化学部、人間社会学部、食健康科学部、環境デザイン学部の6学部14学科があります。私が絵本を使う授業を行っている「児童サービス論」は、人間文化学部日本語日本文学科に開設されている図書館学課程、司書資格取得のための科目のひとつです。

現在、日本語日本文学科には約500人が在籍していて、そのうち1割程度が司書の科目を履修しています。「児童サービス論」は、受講者50人ほどの約半数が日本語日本文学科、残りの半数

が他学科の学生です。1年生後期からいつでも履修可能な科目なので、1年生から4年生まで、さまざまな学年の学生が一緒に学んでいます。

司書の科目にはほかに「図書館サービス概論」「図書館概論」「情報サービス論」などがあります。特に絵本について取り扱うのは、「児童サービス論」だけです。受講しているのは本好きで、幼少期に絵本を読みかきせてもらった経験がある学生が多く、授業を楽しみにしているようです。

## 読みかきせの演習では読み手と聞き手の両方を体験

「児童サービス論」の授業では、はじめに「子どもにとって読書とは何かを考えてください」と、学

型絵本、YA向けの本、紙芝居の中から学生たちがジャンルごとに好きな本を選び、読み手と聞き手を交代しながら読みかきせをし合っていると、90分の授業はあつという間です。

## 演習後の解説授業では見返しの重要性にも言及

解説授業では、読みかきせをするためにはどういう準備をした方がいいのか、どのように読んだらいいのかなどについて説明しています。学生たちは、「読みかきせは上手に読まなくてはいけない」と思いがちですが、上手に読まなくてもいいし、つかえてもいいこと、速いテンポのものは速く、ゆったりしたリズムのものはゆったりと読むことなどを伝えています。登場人物や動物によつて声色を変えなくてもいいのではないかとということも話しています。それは声色を変えることによつて、子どもが絵本の内容よりも、声を出している人のほうに興味を持ってしまふからです。

また、この授業では、副教材として『この本読んで！』を購入しています。解説授業では実際の

絵本の見返しを見せるほか、『この本読んで！』の不定期連載「見返し美人」のページを見せながら、見返しが物語の一部であることも話しています。見返しが物語のプロローグやエピローグになっていたり、主人公を紹介していたり、物語全体の雰囲気を示していたりなど、さまざまな工夫が凝らされ、大切なものであることを学生たちに知ってもらうとともに、その豊かさに気づいてほしいと思います。

学生がイメージする絵本が物語絵本であることや、教科書ではロングセラー絵本の紹介が多いので、「いま」の絵本を知ってもらいたくて、『この本読んで！』を副教材にしています。「帰りの電車の中でも見てくださいね」と伝えたいのですが、学生たちもページをめくるのが楽しいようです。

## 読み手になってはじめてわかる読みかきせの難しさ

授業のあとには、学生たちに感想を書いてもらっています。その中で最も多いのは、「読みかきせがこんなに大変だとは思わなかった」というものです。年下の

生たちに問いかけています。

少し考えてもらったあと、「子どもにとっての読書は、楽しいものでなくてはいけません。楽しくないと、子どもは本を読みませんよ」と伝えると、学生たちはハッと気づいたような表情をします。このように少し頭をほぐしてから、授業を展開しています。

読みかきせについて取り扱うのは2時間で、最初に絵本の読みかきせの演習を、次に読みかきせについての解説を行っています。解説をあとにしているのは、読みかきせを体験したあとに説明を聞いたほうが、気づきがあると思うからです。

読みかきせでは、まず学生3～4人ずつでグループをつくりま

弟妹や親せきが少ない現代では、読みかきせをする機会が少ないのでしよう。絵本を1冊読んで聞かせるために多くのエネルギーが必要なことに、はじめて気づく学生がたくさんいます。

そして、幼いころ親に絵本を読んでもらったことを思い出し、自分たちがどんなに大切に育ててもらったかに思い至るようです。

解説授業のあとには、「読みかきせについてわかったうえで、もう一度読みかきせをやってみよう」と話してくれる学生もいますが、残念ながらカリキュラム上、時間をとるのが難しいのが現状です。

司書の役割のひとつに、図書館利用者と資料を結びつけることがあります。学生には、この絵本の授業を通して、子どもも一利用者であることを知ってもらい、興味を持てるような形で、子どもと本を結びつけられる司書になってほしいと願っています。

子どもは幼いうちは親と一緒に図書館を訪れますが、成長するとどうしても図書館から離れていく時期があります。そこを乗り越えて、将来きちんと図書館を使える人になれるよう、導いていける司書になってほしいですね。

子どもと本を結びつけ、  
導いていける司書になってほしい

すべての子どもたちに笑顔を

# 支援の必要な子 と絵本

外国籍の住民が多く生活する地域にある新宿区立大久保図書館。書籍の貸し出しだけでなく、そこに暮らす大人と子どもに向けた多文化サービス(※)も行っています。大久保図書館が取り組む多言語の読書支援やこれまでの歩み、多文化共生について館長の米田雅朗さんに伺いました。

文/小山まゆみ



米田雅朗 よねだ・まさお  
新宿区立大久保図書館館長。出版社勤務などを経て図書館員となり、2011年より現職。

## 38言語、約2900冊の 外国語資料を所蔵

大久保図書館は、コリアンタウンとして有名になった大久保・百人町地区にあります。今では、ベトナムやタイ、ミャンマー、ネパールなどの料理店のほか、ハラルフードを扱う店などもでき、この地域の居住者の3割をアジア系を中心とした外国の方が占めています。新宿区全体では約130カ国の方々が住んでいて、住人の1割以上が外国の方です。

地域柄、本館では以前から外国語の資料を取り扱っていましたが、2010年度から指定管理者制度による運営となったのを機に、多文化サービスに力を入れるようになりました。現在では38

言語、約2900冊の外国語資料を所蔵し、多言語の読書支援を行っています。

子どものための絵本や児童書などは、大人用の本棚とは別に「児童優先コーナー」を設けています。外国語の絵本もここにあり、中国語、韓国語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語、イタリア語、デンマーク語、フィンランド語、クメール語など、絵本だけで37言語を取りそろえています。

大人用の外国語書籍は、児童優先コーナー近くに「多文化図書」と掲示して置いています。本館に蔵書のないものでも、さまざまな外国語に翻訳された日本人作家の書籍を外部団体の協力を得て集め、展示コーナーをつくったりすることがあります。

また、日本語を学びたい外国の方が多いため、日本語の学習教材類は、小説などは別に「にほんごがくしゅう」と掲示し、目につきやすい児童優先コーナー入口の横に集めています。

## たった1冊でも本国語の本が 図書館にあることが大切

館長になった当初はどのように

## 著作権保護コンテンツ

セージを中国語で貼りだしたことがありました。すると、3週間後にまた同じ方からリクエストがあったのですが、今度はなんと22冊セットの書籍をご要望だったんです。このときはさすがに予算オーバーで購入できず、「今回はむずかしいので、またほかにあつたら」と、再び中国語でメッセージを残しました。

外国籍のお子さんが多く通っている近隣の幼稚園・小学校からの問い合わせを受けて、絵本を購入することもありますが、以前、ネパールの方が一時帰国後に再び来館したときに、母国語の書籍を寄贈してくれたことがあり、後日その本を発見した別のネパールの方がとても喜んでいただくことが印象に残っています。

## 日本での生活を 円滑にするための情報も提供

本に関連したことだけでなく、普段の生活に必要な情報も、中国語、韓国語、英語、ネパール語、ミャンマー語、ベトナム語、インドネシア語、タガログ語、フランス語などで提供しています。

たとえば、地域住民とのトラブルになりやすいゴミの出し方、日本語がよくわからないために巻き込まれやすい消費者トラブルや詐欺への注意など。そのほか、「仕事をしている人のために大切なことが書かれています」と題して「給与明細書は捨ててはいけません」「仕事でケガをしたらどうするか」といった情報の多言語別別のパフレットを本館入口近くの目立つ場所に置いてあります。

本館での案内や掲示は日本語ですが、外国の方がわかりやすいようにほとんどをひらがなで記し、漢字を使う場合は必ずふりがなをつけています。

また、パフレットは置いておくだけでなく、貸し出しカードを新規でつくった方に一緒に渡して、「ゴミの出し方はわかりますか?」などと声をかけています。

スタッフの中には中国出身と韓国出身者が在籍しているので、この2カ国語を母国語とする利用者には積極的にコミュニケーションをとって、本館で行うイベントに誘ったりもしています。それ以外の言語の方との意思疎通のためには受付にAI通訳機「ポケットク」も用意してあります。それを使ってモンゴルの方と会話をしたら、翌日にモンゴル人の友人を

外国語の書籍を仕入れればいいのかかわからず、専門に扱う書店を探して相談するところから始まりました。そこでもらったベトナム語の書籍リストを持って、ベトナムの方が多く在籍する日本語学校に直接伺い、図書館に入れてほしい本に丸をつけてもらったり、新宿区の多文化共生推進課に相談し、ミャンマー語の書籍情報をSNSで発信して投票してもらったりして、希望が多い順に購入したこともあります。

現在は書店に相談して計画的に仕入れている以外に、本館内に中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、モンゴル語などのリクエストカードを用意して要望に応えています。外国の方から「自分の国の本が1冊でも図書館にあると、その街に受け入れられている気がしてうれしくなる」と聞いてから、たった1冊でもその方々にとっては何十冊にも値する心強い存在なのだと思うようになり、年度の途中でも予算が合えばできる限り購入しています。

あるとき、中国語でリクエストがあった書籍を購入し、そのお知らせとともに「リクエストありがとう。またよろしくね」というメッ

連れてきてくれたこともありました。

図書館は、本の貸し出しや返却などをする場所に違いありませんし、単にそのような場所だと思われている方が多いかもしれません。でも、私は本館を「人と人がつながる場所」と位置づけています。そして、外国の方にとってのシエルターやセーフティネットとしての役割を果たせる場所でありたいと思っています。

次号では、いろいろな国の方が参加する読みかきせなどのイベントについてお話を伺います。

※多文化サービスとは、通常のサービスや資料を利用できない、あるいは利用しにくい文化的言語の少数民族を主たる対象とする図書館サービスのこと。主に日本語以外の母国語をもつ方々への図書館サービスのことをいう。



さまざまな言語で書かれた絵本。現地の作品のほか、日本でなじみの『ぐりとぐら』(福音館書店)の翻訳版なども人気。



「にほんごがくしゅう」のコーナー。習熟度別のテキストがそろえられています。



「しごとのためのにほんご」のパフレット。ハローワークと連携して行っている、日本で働くために必要な日本語を学ぶ講座の案内。